

## 短期留学留学報告書

標記について、下記のとおり報告します。

### 記

#### ○基本情報

氏名		所属	文 学部	史 学科	2 年
学籍番号		留学期間	令和 2年 3月	～	令和 2年 3月
留学先 国・地域	マレーシア	留学先(学校)	APU		

#### ○報告内容

<p>1. 留学前準備(留学に参加した理由、留学の目的・目標 等) <b>※必須(300字以上)</b></p> <p>k-stepやk-stepアシスタントの方々と関わっていく中で、自分も海外に行きたいと強く望むようになった。6号館で出会った人々はフレンドリーで楽観的で一緒にいて楽しく、彼らのような人になりたいと思っていた。留学を申し込むにあたり、生活面、語学力において多大な不安があったが、不安を避けては成長できないし強くなれないと思い、海外にチャレンジし成長したい一心でAPU留学を申し込んだ。留学終了後には、1か月間海外留学できたという自信を持つこと、TOEIC600点以上を取ること、自分の中の価値観や考え方が何かしら変化すること、を目標としていた。留学開始日が近づくにつれて不安が増大してきたため、youtubeで英語の勉強をしたり、マレーシアの観光動画を見たりすることで不安を楽しみに変えようと試みた。実際、情報収集もできて留学が一層楽しみになった。</p>
<p>2. 留学中に心がけたこと、努力したこと(授業、日常生活、留学中の活動 等) <b>※必須(300字以上)</b></p> <p>授業では、1コマ中最低2回は自主的に発言することを目標とし、おおむね達成できた。クラスメートとは、留学終了前に全員と仲良くなることを目標とし、クラスメートに話しかけるように意識していたが、途中帰国となったこともあり、一部のクラスメートとしか仲良くなれなかった。英語を使う機会を増やすため、APU大学の提供する"communicative workshop"や"choral speaking"といったイベントに積極的に参加した(参加する予定だった)。日常生活では、なるべく観光するようにしたが、新型コロナウイルスの影響で日本人の入館が制限されていたり、授業の終了時刻がバラバラでなかなか時間を合わせられなかったり、計画はしていたが実行する機会がなかったりと達成出来たとは言いがたい。</p>
<p>3. 留学の成果(留学の目的・目標の達成具合、新たに発見したこと、感じたこと 等) <b>※必須(300字以上)</b></p> <p>2週間のマレーシア留学を通し、一番感じたことは「あたりまえ」は「あたりまえ」ではないということ。私を知っている常識は、あくまで日本の教育・価値観というフィルターを通したものであって、マレーシアでは通用しないということが分かった。はじめにこれを実感したのは、交通事情。マレーシア人は、運転するときに躊躇うことなくスマホを使うし、テキストを打つためハンドルから両手を離すこともある。信号は、赤も青もついていないものもあるし、押しボタン式なのに押しボタンがないなどあてにならないことも分かった。2週間のマレーシア滞在中で私の価値観が壊れたのは、交通事情だけではない。1つアクションを起こすたびに何かしら驚きがあるといっても過言ではないほど、日本の「あたりまえ」は「あたりまえ」ではないのだと気付く機会がたくさんあった。</p>
<p>4. 留学の成果の活用(留学で学んだことを今後、どのように活かしたいか 等) <b>※必須(300字以上)</b></p> <p>いつか海外に住みたいという夢があったが、実現できる自信がなかった。しかし、今回マレーシアに滞在中で、大学卒業後に海外に住むことは可能だと確信を得た。APU大学で出会った日本人男性は、海外で仕事探した経験を持っており、日系企業が現地日本人を探していること、日本語が話せることはアドバンテージであることを教えてくれた。また、日本と同じようにアルバイト募集の張り紙を見かけることもあり、ワーホリでも仕事は見つかるかもしれないと思うようになった。これまで考えてきた、jioaの青年海外協力隊、国際交流基金の日本語パートナーズの他にもいろいろな方法があることが分かり、大学卒業後に海外に住めるかどうかは行動力次第だと考えるに至った。勇気を振り絞って行動した先には、素敵な出会い、経験が待っていたので、今後も冒険心を忘れずに、多少のトラブルは楽しみながら行動、進路決定をしていきたい。</p>

氏名		所属	文 学部	史 学科	2 年
学籍番号		留学期間	令和 2年 3月	～	令和 2年 3月
留学先 国・地域	マレーシア	留学先(学校)	APU		

#### 5. 留学中の画像(お気に入りのスナップ) **※必須(画像1枚以上)**

※Excelの「挿入」メニューから「画像」をクリックし、挿入する画像を選択・挿入してください。



写真の説明① 留学1日目 スルタン・アブドゥル・サマド・ビル



写真の説明② Batu Caves チームJapan&Kazakhstan



写真の説明③ 帰国が決まった日クラスメートと撮った一枚



写真の説明④ 2週間一緒に過ごした日本人9人での修了式

#### 6. 外国語での記述欄(上記1~4の項目について要約し、留学地域の言語で記述してください) **※必須(字数・語数は問わない)**

I decided to study abroad in Malaysia to become like my friends who are in the building 6 in Kokugakuin University. I like them because they are friendly and kind. I long for them. I wanted to change my sense of value and improve my communicative competence and English skill in Malaysia. In APU university, I tried to mention my opinion voluntarily at least twice per one class and make friends with all my classmates. Through studying abroad, I could change my sense of value. I noticed that common knowledges in Japan didn't work in Malaysia. There are many surprising events and troubles during this studying abroad. As we overcame troubles, we became more friendly and strong.

#### 7. その他(自由記述)

ほぼ初対面の4人でクアラルンプールを冒険することから始まった私たちの留学は、マレーシアのロックダウンに伴い緊急帰国する形で終わった。新型コロナウイルスが世界に広がっている暗い世界情勢の中、マレーシアで出会った日本人9人は、何度となく迫ってくる様々な問題を真剣に、それでも笑いながら乗り越えてきた。いつ帰国になるか分からないからとみんなで駆け込みで行ったツインタワー。その日の夜、マレーシア政府によるロックダウンの発表があり、食糧確保のために行った真夜中の買い出し。数時間後には、状況が一転することもしばしばあり、本来であれば疲労困憊していたはず。それでも、みんなといるとすべての出来事を楽しめた。マレーシアを満喫することはできず不完全燃焼ではあるが、このような留学を経験することはなかなか出来ず、ある意味当たり年だったと思う。2週間だけでも留学に行けてよかった、みんなと出会えてよかったという思いで胸がいっぱい。